

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **123** 号

令和4年 10・11・12月



銀壺 部分（正倉院宝物）

特別展

第74回 正倉院展

10月29日(土)～11月14日(月)
東・西新館

特別展
式年造替記念展

春日大社 若宮国宝展 －祈りの王朝文化－

12月10日(土)～令和5年1月22日(日)
東・西新館

名品展

珠玉の仏教美術

12月10日(土)～
西新館

名品展

珠玉の仏たち

通年
なら仏像館

中国古代青銅器

通年
青銅器館

第74回 正倉院展

10月29日(土)～11月14日(月)

奈良の秋を彩る正倉院展が、今年も開催の運びとなりました。七十四回目を迎える今年も、正倉院宝物を構成する多彩なジャンルの品々が展示されます。

繊細かつ華やかな文様が施された「漆背金銀平脱八角鏡」、「黄熟香(蘭奢待)」と並ぶ名香「全浅香」といった宝物は、天平勝宝八歳(七五六)六月二十一日、聖武天皇の四十九日に合わせ、光明皇后が東大寺大仏に献納した天皇ご遺愛の品として格別の由緒を誇ります。一方、貴重な銀が贅沢に使われた「銀壺」は、聖武天皇の娘・称徳天皇が大仏に献納した品で、表面の騎馬人物などの線刻文様が目をひきます。「彩絵水鳥形」や「斑犀把緑牙撥鏤鞘金銀荘刀子」といった奈良時代のアクセサリも、精緻な細工が光る逸品といえましょう。また、大仏開眼会で使われた「伎楽面 力士」や、東大寺への献納品をのせたと考えられる「粉地彩絵几」といった宝物は、その鮮やかな彩りを通して、当時の華麗な仏教儀礼の場をいきいきと伝えていきます。

こうした貴重な宝物は、伝統を重んじる先人たちの弛まぬ努力によって守り伝えられてきました。「錦繡綾絶等雑張」は、江戸時代に正倉院の染織品にはじめて本格的な整理の手が加えられた記念碑的な品です。宝物の保存の歴史にも思いを馳せながら、正倉院宝物の魅力をぜひご堪能ください。

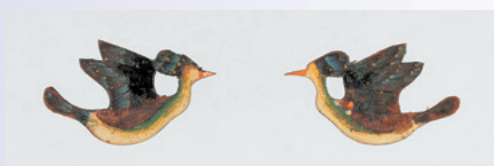
なお、昨年に続き、感染症拡大防止に万全の対策をとるため、入館に制限を設けるなど、ご不便をおかけいたします。安全にお楽しみいただくためにも、ご理解の程をお願い申し上げます。



伎楽面 力士 (南倉)



金銀平脱皮箱 (中倉)



彩絵水鳥形 (中倉)



全浅香 (北倉)



漆背金銀平脱八角鏡 (北倉)



粉地彩絵几 (中倉)

式年造替記念特別展

春日大社 若宮国宝展

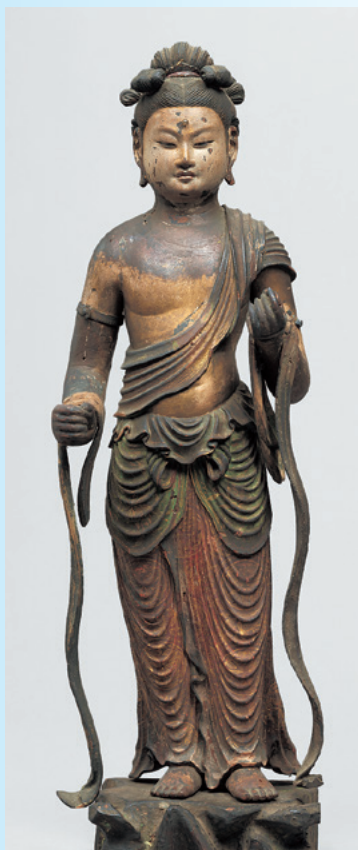
―祈りの王朝文化―

12月10日(土)～令和5年1月22日(日)

令和四年(二〇二二)十月、春日大社の摂社、若宮神社の社殿(重要文化財)の御造替が完了いたしました。御造替とは、社殿を新しく建て替え、神宝や調度品などを新調する行事で、古来二十年に一度を式年として行われてきました。本展覧会はこの大事業の完成を記念して開催する特別展です。

春日若宮神は、春日大社本社本殿に祀られる四神の御子神として平安時代の長保五年(一〇〇三)三月に誕生したと伝えられています。五穀豊穰の神、学問の神として広く信仰され、毎年十二月に行われる「春日若宮おん祭」は、大和一国を挙げた盛大な祭礼として有名です。

本展では、藤原摂関家をはじめとする平安貴族が若宮神に奉納した太刀や弓、飾り物など、当時最高峰の技術を集めた工芸品(国宝等)を一堂に集め、壮麗な王朝文化の世界を感じていただき、また古来の祭礼や神事芸能の数々をご紹介します。そして過去、現在の御造替にかかわる器物や歴史資料から、これを支えた人々の努力の軌跡をふり返ります。



文殊菩薩立像(東京国立博物館)



国宝 若宮御料古神宝類 金鶴及銀樹枝 (奈良・春日大社)



国宝 春日権現験記絵 巻第十三 (宮内庁三の丸尚蔵館)
※12月10日～25日展示



国宝 赤糸威大鎧(竹虎雀飾) (奈良・春日大社)



国宝 若宮御料古神宝類 毛抜形太刀 (奈良・春日大社)

正倉院宝物をみたイギリス王子たち

―百四十年前の国際交流―

当館学芸部情報サービス室長 宮崎 幹子

当館学芸部専門職 堀内しきぶ

いまからおおよそ百四十年前の明治十四年（一八八二）十一月、奈良を訪れたイギリス人がいた。アルバートとジョージ（のちのジョージ王五世）という二人の王子と、彼らの家庭教師である。一行は海軍の艦艇で世界を巡るなかで来日し、各地で多くの人と出会い、さまざまな文化に接した。王子たちが日本から持ち帰った古写真については、令和元年から二年（二〇一九―二〇）に当館で開催した特別陳列で紹介したが、彼らは旅行記（*The Cruise of Her Majesty's Ship "Bacchante", 1879-1882, Macmillan, 1886*）も残している。私たちはいま、近代日本を活写したこの貴重な記録の翻訳に取り組んでいる。ここでは旅行記にもとづきながら、奈良での足跡の一端をたどってみたい。

王子たちは京都から奈良に入り、西洋建築の師範学校（明治十年（一八七七）に興福寺食堂跡に建てられた寧楽書院だるう）を宿舍とした。翌早朝から「非常に聡明な」興福寺貫首の案内で、五重塔、東金堂、南円堂、北円堂を順に参拝した。堂内の荘厳や仏像に驚き、神秘的な美しさや造形を称賛する一方で、八世紀から続く寺の歴史や、近年分離させられた神々と五つの本地仏（春日本地仏と思われる）、さらには途絶した塔頭から東金堂に集められていた破損仏についても記している。興福寺が廃寺を経て再興へと向かっていったころの臨場感が伝わってくる。

次に訪れたのは「帝の倉」、すなわち正倉院だ。「高さ八フィート（約二・四メートル）の柱に支えられた倉の三つの扉に、仮設の梯子をかけてなかへと入っていった。八世紀に遡る貴重な古美術コレクションは「最近整理が始められたばかり」で、箱や櫃には古物がいっぱい納められている。上階には「ガラスケース」に整理された品もある。王子たちの訪問の二年前、内務卿伊藤博文は宝庫のなかに陳列棚を設ける建議を出し、明治十三年（一八八〇）から翌年にかけて設置作業が行われた。王子たちは新設の棚に並べられた宝物をいちはやく拝観する機会を得たことになる。

一行は、ふたつの大きな銀の壺（銀壺、千年前のものといわれる緑の釉薬がかかった陶片（本当ならそうした品の製作年代の説がひっくり返るだろう）、日本にある最も古いガラス、信長も切り取った、よい香りがする長い切り株状のもの（黄熟香）など、



奈良へ来る直前に西本願寺で撮影された写真
アルバート王子（前列左から2人目）、小松宮彰仁親王
（同4人目）、ジョージ王子（同5人目）
Group portrait at Nishi Hongan-ji, Kyoto 5-6 Nov 1881
Royal Collection Trust /
© His Majesty King Charles III 2022

たくさん宝物をみた。それらの古さに感嘆し、学術的価値や希少性を讃えつつ、編年への関心を示したり、博物館の中核的な展示品になるだろう、と感想を述べている。彼らが今日の正倉院展の盛況を知ったら、予想に違わずと喜んだだろうか。

宝庫を後にした王子たちは、東大寺大仏殿へと歩を進める。仰ぎみるほどに巨大な大仏を堪能し、「古い銅像やその他の古美術品の展示館となっている」仮設小屋でも宝物類を鑑賞した。明治八年（一八七五）四月から六月にかけて、大仏殿回廊

を会場として第一次奈良博覧会が開催され、十四年三月から五月には第六次が開かれている。王子たちの訪問は博覧会の会期中ではなかったが、出陳品の一部は引き続き東大寺にとどめ置かれていたと思われる。

そして巨大な杉木立と灯籠のなかを進んで春日大社本殿と若宮神社に参詣し、神楽殿では藤と椿の髪飾りをつけて正装した娘たちの優美な舞を楽しんだ。彼らは人力車に乗り込み、行程はさらに法隆寺へと続いてゆく。

旅行記には、王子たちが実見したものについて、大きさを添えつつ丁寧な描写が残される。驚かされるのは、宝物類のみならずその背景にある歴史や信仰についても、深い洞察力と敬意をもって接し、詳しく記録していることだ。折に触れ、西洋の宗教や古代史との比較をおこなって日本との共通点や相違点を見出し、そこから更に理解を深めようと努めている。記述の正確さから、日本側には案内や通訳を担当した優れた人たちがいたことも想像される。

旅行記の存在と、そこから追体験できる彼らの滞在は、古都に息づく文化を通して国境を超えた交流が確かにあったことをいまに伝えてくれる。現代よりも移動が格段に困難であった時代に、豊かな交流を成し得た先人たちの熱意を感じたのだった。

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和4年9月27日(火)〜12月18日(日)

彫刻

第1室

阿彌陀如来立像

観音菩薩立像

不動明王立像

天部形立像

蔵王権現立像

役行者坐像

第2室

阿闍如来坐像

釈迦如来坐像

文殊菩薩坐像

毘沙門天立像

菩薩立像

第3室

阿彌陀三尊像

阿彌陀如来立像

阿彌陀如来立像

阿彌陀三尊像

第4室

薬師如来坐像

如来立像

釈迦如来立像(清涼寺式)

諸尊仏龕

諸尊仏龕

第5室

誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

菩薩半跏像

観音菩薩立像

観音菩薩立像

観音菩薩立像

観音菩薩立像
観音菩薩立像
観音菩薩立像

仏手

如来坐像

誕生釈迦仏立像

二仏並坐像

菩薩立像

十一面観音菩薩立像

力士立像

如来立像

如来立像

方形独尊坐像埴仏

三尊埴仏

六角形埴仏(伝三重県天華寺跡出土)

塑像片(奈良県定林寺出土)

塑像断片(迦楼羅頭部ほか)

(奈良県川原寺出土) 明日香村教育委員会

塑像断片(天部・僧形像ほか)

(滋賀県雪野寺出土)

増長天立像

広目天立像

釈迦如来立像

如来立像

阿彌陀如来坐像

薬師如来坐像

伽藍神立像

観心寺

金剛寺

個人

新薬師寺

当館

個人

個人

個人

個人

光明寺

当館

当館

南法華寺

当館

当館

当館

福命寺

当館

当館

当館

興福寺

法明寺

当館

当館

欲喜寺

玉峰寺

当館



伽藍神立像(当館)

金峯山寺

東大寺

観音菩薩立像
観音菩薩立像
観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

如来三尊像

如来三尊像

如来三尊像

四天王立像残片

阿彌陀如来立像(裸形)

梵天立像

救脱菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

准胝観音菩薩立像

明星菩薩立像

地藏菩薩立像

地藏菩薩立像

不動明王立像

不動明王立像

愛染明王坐像

軍荼利明王立像

大威徳明王騎牛像

閻魔王坐像

男神坐像

大将軍神坐像

蔵王権現立像(五軀)

十二神将立像(丑巳午未申亥)

持国天立像・増長天立像

天部形立像

二天王立像

毘沙門天立像

当館

文化庁

勝林寺

元興寺

園城寺

地福寺

勝林寺

新薬師寺

当館

当館

当館

西大寺

浄土寺

秋篠寺

秋篠寺

松尾寺

西光院

文化庁

弘仁寺

大福寺

万福寺

妙法院

個人

当館

園城寺

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

帝釈天坐像
毘沙門天立像

室生寺

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

古葉略類聚抄
中臣祐賢和歌懷紙(春日懷紙)

興福院

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

大毘婆沙論 卷第二十三(五月一日経)

談山神社

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

東大寺

金銅製龍文帶金具

(奈良県五條猫塚古墳出土)

当館

ガラス玉・金製垂飾付耳飾ほか

(奈良県星塚2号墳出土)

当館

装飾付子持台付壺

当館

犬形埴輪(伝茨城県東海村出土)

当館

盛装男子埴輪(伝群馬県出土)

当館

【工芸】

◎火焰宝珠形舍利容器

海龍王寺

金亀舍利塔

長谷寺

黒漆蒔絵宝塔嵌装舍利厨子

個人

獅子座火焰宝珠形舍利容器

金剛寺

獅子座火焰宝珠形舍利容器

個人

春日宮曼荼羅彩絵舍利厨子

個人

◎春日龍珠箱

当館

百万塔

当館

百万塔

当館

百万塔

個人

経帙

当館

経筒

施福寺

◎鳳凰文餞金経箱

当館

◎孔雀餞金経箱

浄土寺

◎大般若経厨子

当館

春日若宮大般若経厨子模造

西京是陽作

素文磬

当館

孔雀文磬

当館

孔雀文磬

当館

孔雀文磬(南都新浄土寺銘)

長谷寺

孔雀文磬(長谷寺等銘)

長谷寺

蓮華文磬

個人

蓮華形磬

当館

◎鰐口

当館

鰐口

西方寺

◎梵鐘

当館

梵鐘

当館

◎髹漆卓

岩王寺

三脚卓

当館

黒漆螺鈿卓

当館

名品展

中国古代青銅器 坂本コレクション

青銅器館



中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※◎Ⅱ国宝、○Ⅱ重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

◆キャンパスメンバーズ

特別展「春日大社 若宮国宝展」では、キャンパスメンバーズを対象に、学芸員による解説付き鑑賞会を予定しております。詳細が決まり次第、Twitter等でお知らせします。

令和4年10月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。
追手門学院大学文学部・国際教養学部、大阪大谷大学、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部・教育学部、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学(以上、五十音順)

◆奈良国立博物館賛助会

令和4年10月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員6団体、一般会員(団体)17団体、一般会員(個人)101名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、
(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー、
(株)葉風泰夢

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、
(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、
(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、
奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、
小山(株)、オフィス・カワイ、小路谷写真(株)、
校倉な会、結の会、奈良県有名専門店会

〔個人会員(新規)〕

岩谷 直子様 令和4年8月ご入会
佃 邦晴様 令和4年9月ご入会

■新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染防止のための対策を行っています。ご来館に際してはマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。アルコール消毒や手洗い、検温等にご協力ください。

なお、展示やイベント等につきましては、状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

【表紙解説】 銀壺



銀製 铸造
口径四二・九cm
奈良時代(八世紀)

胴径六一・三cm 総高四六・六cm
正倉院宝物(南倉)

正倉院最大の銀器。一抱えもある大ぶりの壺(形は托鉢用の「鉄鉢」に似る)で、総重量は約四十二キログラム。大仏に捧げるための特別仕様である。表面には雄大な狩猟絵巻がタガネで刻まれている。馬に乗った人物が計十二人。弓矢を持ち、鹿や猪を追って山野を駆けめぐっている。よく見ると、馬上から後ろ向きに弓を射る、いわゆるパルティアン・ショットの名人がいたり、落馬しそうなロデオの達人(?)もいたりして、ついのもり込んでしまう。狩猟図は中国・唐代の人士に好まれ、手のひらに収まるくらい小さな銀のゴブレットに、馬上のハンターや獲物を神業の細かさで線刻したものがあつた。本品はそうした唐の文物にならいつつ、思い切りよく巨大化させた逸品である。底裏には「天平神護三年二月四日(七六七〇年)の刻銘があり、この日に東大寺に行幸した称徳天皇の奉納品と考えられている。

吉澤 悟(当館学芸部長)

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通（つう）」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■10月16日(日)

「古代の戸籍と正倉院文書について」

野尻 忠(当館学芸部資料室長)

今から1300年以上前の飛鳥・奈良時代に作られた日本の戸籍について、その制度と実態をお話しします。現存する戸籍の多くは正倉院に伝来しましたので、今回は正倉院文書の全体像にも言及しつつ、戸籍を読んでみたいと思います。

【受付期間】 9月26日(月) 10:00～10月15日(土) 17:00

■11月20日(日)

「古写真と仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

たった1枚の古写真が、仏像の知られざる歴史の側面を明らかにすることがあります。仏像研究における古写真の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

【受付期間】 10月31日(月) 10:00～11月19日(土) 17:00

■12月18日(日)

「如来像の着衣について」

岩井 共二(当館学芸部美術室長)

奈良国立博物館が今年制作した仏像のレプリカなどを用いて、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏像が、どのような衣の着方しているのかを分析し、仏像の衣文の美にせまります。

【受付期間】 11月28日(月) 10:00～12月17日(土) 17:00

■令和5年1月15日(日)

「仏像の模刻をめぐる」

内藤 航(当館学芸部研究員)

特定の彫刻を模して別の彫刻をつくることを模刻と言います。特に仏像では著名な像が模刻される例が多く知られますが、そこでは単に「かたち」を写すだけでなく、原像がもつ背景も参照されました。いくつかの事例から、仏像を模刻する意味を考えます。

【受付期間】 12月26日(月) 10:00～令和5年1月14日(土) 17:00

■令和5年2月19日(日)

「奈良の仏教版画をめぐる Nara's Buddhist Prints」

ルウィーン・メアリー Mary Lewine(当館学芸部研究員)

「印仏」というのは、スタンプ式の小さい仏教版画です。今回は奈良の印仏を中心に上げ、儀式や道教からの影響などの視点から印仏を考察して、その信仰背景と魅力を英語と日本語両方でご紹介いたします。

【受付期間】 令和5年1月30日(月) 10:00～2月18日(土) 17:00

■令和5年3月19日(日)

「ステラレネーゼ達の“断捨離”」

荒木 臣紀(当館学芸部保存修理指導室長)

物を捨てられない人種「ステラレネーゼ」が多く集まる博物館。そんな博物館で行われた「断捨離」事業での苦労と、そこから見える文化財保存の極意についてお話しします。

【受付期間】 令和5年2月27日(月) 10:00～3月18日(土) 17:00

【時間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回90名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

◆「第74回 正倉院展」

■10月29日(土)

「正倉院宝物の保存―宝物を覆う―」

高畑 誠 氏(宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員)

■11月12日(土)

「正倉院の仏具―奈良時代の寺院と法会の世界―」

三本 周作(当館学芸部研究員)

【時間】 13:30～15:00(13:00開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回90名(事前申込制)。抽選による座席指定制です。

【応募期間】 9月26日(月)～10月11日(火)必着

【応募方法】 はがきかファクスに、代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と同伴者(1名まで)の氏名、年齢、参加希望日を書いて、以下の宛先にご応募ください。

はがき：〒539-0041(住所不要)読売新聞大阪本社文化事業部「第74回正倉院展」公開講座係

ファクス：06-6366-2370 正倉院展ホームページからもお申し込みいただけます。

【参加証の送付】 当選者には、10月19日(水)までに参加証をお送りします。当日必ずお持ちください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※はがき1枚につき1講座のお申し込みとなります。

※消せるボールペンは使用しないでください。

【お問い合わせ】 読売新聞大阪本社文化事業部

電話：06-7732-0063(平日10:00～17:00)

◆式年造替記念特別展

「春日大社 若宮国宝展―祈りの王朝文化―」

■令和5年1月7日(土)

「王朝文化が蘇る 春日若宮古神宝とその復元」

松村 和歌子 氏(春日大社国宝殿主任学芸員)

【時間】 13:30～15:00(13:00開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 90名(事前申込制)。抽選による座席指定制です。

【応募期間】 11月28日(月) 10:00～12月12日(月) 17:00

【応募方法】 当館ホームページ「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【参加証の送付】 当選者には、12月23日(金)までに参加証をお送りします。当日必ずお持ちください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募はお1人様1回でお願いいたします。

◆「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館の特別展及び国立博物館4館の平常展をお得にご観覧いただける「奈良博プレミアムカード」、国立博物館4館の平常展を無料で観覧できる「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。WEBからも購入いただけます。

詳しい情報は下記QRコードからご確認いただくか、当館観覧券売場へお問い合わせください。



プレミアムカード



メンバーズパス

式年造替記念特別展
「春日大社 若宮国宝展一祈りの王朝文化―」

し し こまいぬ わか みや じん じゃ てっ か ひん
獅子・狛犬(若宮神社撤下品)

2 軀
木造 漆箔
像高 獅子 37.2cm
狛犬 39.9cm
鎌倉時代(13世紀)
奈良 春日大社



狛犬

獅子

春日大社の摂社、若宮神社の社殿を守っていた獅子と狛犬の像。吠えるように口を開くのが獅子で、頭上^つに角があり、口を閉じるのが狛犬である。近年に社殿から撤下^{てっか}(神前に供えた品を下げること)されたが、今冬の展覧会で初公開されることとなった。平成27年(2015)から同28年にかけて行われた春日大社第60次式年造替に際し、本社本殿の第一殿から第四殿に安置されていた獅子・狛犬の計4対が撤下され、なかには鎌倉時代にさかのぼる像も含まれていたことで注目を集めたが、最近の調査によって本像も同時代の作と判断された。

小さな頭部をがっしりとした体部が支えるプロポーションには破綻がなく、作者の並々ならぬ力量がうかがえる。拝する者の方へ首を振る動勢表現は鎌倉時代以降の獅子・狛犬から増えるが、鬣^{たてぬい}が体に密着するように流れる造形など前代の名残を留める点もあることから、制作時期は13世紀の前半に収まると考えられる。守護獣らしい獠猛^{どうもう}なイメージを保ちつつ、どこか愛らしい雰囲気が同居するのも本像の魅力のひとつ。

内藤 航(当館学芸部研究員)

展示品の
みどころ

第74回正倉院展

にしきしゅう あやあしきぬなど ざっちょう
錦繡綾絶等雑張

23片 附1巻
絹製
絶・綾・緯錦、縹縹・縹縹
奈良時代(8世紀)
正倉院宝物(北倉)



部分

奈良時代に作られた色とりどりの織物を贅沢に貼り込んだ屏風が、かつて正倉院に存在した。天保7年(1836)の宝蔵御閉封に際して制作されたこの屏風は、奈良時代に制作された古い屏風の骨(内部の構造材)を再利用して下地を作り、そこに70点以上の織物断片を配置した作品であった。なかには聖武天皇の一周忌齋会(757年)で用いられた錦道場幡の一部など、奈良時代を代表する染織品も貼り込まれていた。

後に「東大寺屏風」と呼ばれたこの作品は、近代に至って虫損が進んだため、現在は屏風下地と染織品が別々に保存され、かつての姿は留めていない。しかし、この屏風制作は正倉院における初の本格的な染織品整理の成果としても重要な意味を持っている。朽ちていく染織品を和紙で裏打ち補強して未来に伝えるという方法は、明治時代以降の修理事業にも引き継がれ、多くの宝物を守ることとなった。

かつて屏風に貼り込まれていた数々の織物から、現代に続く正倉院宝物の保存と修理に思いを馳せて頂きたい。

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

■開館日時(10月~12月)

■開館時間／午前9時30分~午後5時

※正倉院展会期中の月~木曜日は、午前9時~午後6時

※正倉院展会期中の金・土・日曜日、祝日は午前9時~午後8時

※名品展は、毎週土曜日は午後8時まで

■休館日／毎週月曜日、12月28日~1月1日

※正倉院展会期中は無休

※令和5年1月2日(月・振替)は開館

■観覧料金 名品展

	一 般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイリDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ)加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■前売日時指定券料金「第74回正倉院展」

(当日券の販売はありません)

	一 般	高校・大学生	小・中学生
当日券	2,000円	1,500円	500円

※前売日時指定券は、ローンチケット[Lコード:58885]、ローン及びミニストップ各店舗、電話受付(TEL:0570-000-028)、または公式サイト<<https://l-tike.com/>>で販売します。当館チケット売場で販売はありません。

※販売方法、券種等の詳細は、展覧会チラシ、当館ホームページ、正倉院展ホームページにてご確認ください。

■式年造替記念特別展「春日大社 若宮国宝展一祈りの王朝文化―」

	一 般	高校・大学生	小・中学生
当日券	1,600円	1,400円	700円
前 売	1,400円	1,200円	500円

※前売券はイーバス、ローンチケット、チケットぴあ、CNプレイガイド、楽天チケット、セブンチケットで10月11日(火)から12月9日(金)まで販売します(チケット購入時に手数料がかかる場合があります)。

※障害者手帳またはマイリDID(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名含む)、奈良博プレミアムカード会員の方(1回目及び2回目の観覧)は無料(要証明)。

※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ)会員(学生)の方は400円、同(教職員)の方は1,500円で当日券をお求めいただけます(要証明)。観覧券売場で学生証または職員証をご提示ください。

※本展の観覧券で、西新館にて開催する名品展、なら仏像館・青銅器館の名品展もご覧いただけます。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。